

平成30年度愛媛県公立学校新規採用教職員辞令交付式 教育長あいさつ

平成30年4月2日（月）
生涯学習センター 県民小劇場

平成30年度愛媛県公立学校新規採用教職員辞令交付式に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

意欲と情熱に満ちた413名の皆さんを、愛媛県の教育界にお迎えできたことを、大変うれしく、心強く感じております。今日、皆さんにお渡しする辞令書には、愛媛の教育界に新しい風を吹き込み、さらに発展させてほしいという県民の期待や、子どもたちの健やかな成長と幸せを願う保護者や地域の方々の熱い思いが込められています。皆さんの活躍を心から期待しております。

現在、我が国の教育は、大きな変革期を迎えております。新学習指導要領が、平成32年度の小学校を皮切りに、順次完全実施となるに当たり、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善や英語教育の充実、プログラミング的思考力の育成など、新しい教育に向けた取組が進められております。県においても、県内の「スゴ技」企業を含む事業所等の協力を得て5日間の職場体験学習に取り組む「えひめジョブチャレンジU-15事業」、地域を担う人材の育成を目的とした「地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業」など、全ての子どもたちが社会でたくましく生きていく力を身に付けられるよう、家庭・地域社会等と連携・協働しながら教育活動の充実を図っています。また、昨年度、本県で開催され、児童生徒の活躍もあり成功のもとに終わった「えひめ国体・えひめ大会」のレガシィの活用、近い将来起こるとされている南海トラフ地震に備えた防災教育等にも取り組んでいます。

さて、近年、人工知能の発達は著しく、私たちの生活に深く関わるようになってきています。将来的には、今ある職業の多くが人工知能に取って代わられるとも言われています。しかし、人を育てるといふ教職員の仕事は人工知能で代替することは難しいと思っています。教育とは、懸命に頑張っている子どもたちの熱意や、誰かの役に立ちたいという子どもたちの気持ちに答えて、その子どもたちと心を通わせながら、学ぶことの喜びを教え、人間ならではの感性や創造力、社会性を育てていくことだと思います。徹頭徹尾数学で出来上がっていて、論理と確率と統計に依存する人工知能では、そうした教育は難しいのではないかと思います。

これから、子どもたちと向き合い、保護者や地域の方々、同僚と関わる中で、思いどおりに行かないことや困難な出来事に直面し、時には焦燥感や無力感で苦しさを感じることもあるでしょう。そのような時、一人で問題を抱え込まず、誰かに相談すれば、必ずサポートしてくれます。そして、愛媛の子どもたちが笑顔を輝かせ、夢に向かって大きく成長できるよう、自らを奮い立たせて、努力を続けていただきたいと思

います。そのためには、まず、皆さんが心身ともに健康であることが大切です。ワーク・ライフ・バランスというのが英語として正しいのですが、あえて、私は、考え方として、ライフ・ワーク・バランスに心がけていただきたいと思います。ライフがあって、ワークがある。ライフの中でワークをどう位置付けるかだと思います。もちろん皆さんは採用されたばかりで、なかなかそういうゆとりを作り出すことは難しいかもしれませんが、心がけとしては、ワークばかりではなく、ワーク以外のものに向かう時間的余裕を持つことも大切ではないかと思っています。そして、教職員自身が、新たな学びを実践することが大事だと思います。仕事に役立つからというだけではなく、自分が面白いと思ったこと、興味をもったこと、違う世界のことを学んでみる実践が必要ではないかと思っています。そのほうが自らの人生がより豊かになりますし、多角的な視点を持てると思います。このことが、実は、子どもたちが本来持っている個性や能力を引き出す上での力になるのではないかとも思っています。

これからの毎日が皆さんにとって明るく希望に満ちたものであることを期待してあいさついたします。